
心霊につき

幽鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心霊につき

【Nコード】

N4803X

【作者名】

幽鬼

【あらすじ】

作者の友人、知人などの心霊体験(?)を題材に、ホラーなストーリーを繰り広げて行きます。

少し長いかもしれませんが、読んでいただけたら嬉しいです！

また、身近な人でこんな心霊体験をした！

といった情報もバンバン送って下さい、感想待っています！

恨み地蔵（前書き）

初投稿、友人の話を題材にしています。

恨み地蔵

これは、とある友人の体験談です…

『恨み地蔵』

提供、友人Aさん

それは、友人が幼い頃から始まった事。

まだ、田舎にいた彼はとても元気が良く、近所の親しい友達と毎日のように遊んでいたそうです。

暫くして、友人率いる彼らは「地蔵倒し」といった悪ふざけを始めたそうです。

地蔵を倒したり、頭を叩いたり…

彼の祖母は「罰当たりな事はするんじゃないよ」と、注意したそうです。

が、やんちゃ坊主な彼らは「地蔵倒し」を続けました。

友人はあまり勇気が無かったらしく、地蔵を倒さずに頭を叩いてこまかしていたそうです。

時は過ぎ、現在…

友人はついこの前、頭痛を訴え学校を休んでいました。

そして彼は、1ヶ月学校には来ませんでした…

休んでいたその日に入院したそうです。

原因は頭蓋骨の骨折。

心配な私は、見舞いに行く為に彼が入院している病院に立ち寄りま
した。

「よつす、大丈夫か…頭？」

と聞きながら病室へ入ると、彼はこう言ったのです。

「うん、分かっていた事だから、大事には至らなかった」

と、幾ら何でも骨折する事を予測するのは普通では不可能なので、
私は理由を聞きました。

すると彼は、

「呪いなんだよ、地蔵の呪いなんだ…」
としかその時は言ってくれませんでした。

後日、改めてあの事を聞きました。

理由は、幼い頃の地蔵への悪戯が原因だと言いました。

しかし、地蔵に悪戯しただけで骨折を地蔵のせいにするのは考えても有り得ない…

更に理由を聞いた所…

「『地蔵倒し』をしていた幼なじみが最近、大怪我をした。それも、まるで地面に思い切り叩きつけられた様に…だから、あの地蔵にした悪戯の仕返しが来ると思った。」

私は、最近その地蔵のある辺りには行ったのか？

と聞きました。

「無い」

と彼は答えたので、

「謝りに行こう。」

と、誘いました。

また、暫くして彼が退院した翌日。

電車を乗り継ぎ、例の地蔵のある田舎まで行きました。

彼に案内してもらい、地蔵に謝りました。

そこへ、近所に住む老人が来て…

「恨み地蔵にお参りとは、あんたらも何か恨みがあるのかね？」

と聞かれたので、地蔵について聞いてみた所…

この地蔵は『恨み地蔵』と言って、人の醜い恨む心を忘れさせ、自分に吸収させるそうだ…

地蔵に積もった恨みが…

罰当たりな人間に恨みを込めて、罰を下す事もあるという。

私と彼は地蔵に向き直り、改めて悪戯の事を…

深く謝ったのであった…

恨み地蔵（後書き）

あなたも罰当たりな事をしてると...

気を付けて帰ってね…（前書き）

短編、作者実体験です

気を付けて帰ってね…

これは私の実体験です…

「気を付けて帰ってね…」

作者実体験

とある休日、幼なじみの家に遊びに行きました。

久々だったので、時間が過ぎるのも忘れて夜まで遊びました。

そして、帰る時間…

彼の母はいつも帰る時に「気を付けて帰ってね」等と必ず声を掛けてくれます。

そしてその日も、「気を付けて帰ってね」と言われたので、

「はい、お邪魔しました！」と挨拶して帰りました。

その時、彼は丁度トイレに行っていたので、一応一言掛けて帰りました。

帰りに、メールでも「今日はありがとう」と送ったのですが…

返信されたメールには、「そっぴゃ、帰りに誰に返事したんだ？」と聞かれ、変な事を聞くな…

と思い、「お前の母にだよ？」と返信しました。

そして返事には「母は仕事だし、オレは一人っ子だから兄弟も居ないから、あの時家に居たのはオレとお前だけだよ」

と書かれており、後日彼の母に確認した所…

母は仕事に出ている、帰って来たのは丁度私が彼とメールでやり取りしていた頃だったと言う…

それから、暫く私達は外で遊ぶ事にした…

気を付けて帰ってね…（後書き）

マジで怖かったです…一体、誰が声を掛けていたのでしょうか？

畏怖レポート（前書き）

今回はあまり怖くないものを…

畏怖レポート

友人の体験です…

「畏怖レポート」

彼は英語の授業に居眠りしていました。

勿論、教師は怒り彼にレポート提出を課題として出しました。

翌日、彼は元々英語の成績はお世辞にも良いとは言えないものでしたが…

爆発的に成績が跳ね上がっていました。

驚き、どんなレポートを提出したのか？

そう尋ねた私に彼は…

「ん、ああアレね…。外人のブログからプリンを作った時の感想を丸写しした。」

友人曰わく、私達の英語教師は英語の理解力が致命的だったらしく、

あまりに高度な英語は理解できないらしい…

友人は続けた。

「だから、丸写しレポートのタイトルをそれっぽく、分かりやすく『IF』にして提出したんだ！」

つまり教師はレポートの枚数で評価し、内容に全く目を通していなかった。

これが後に我が母校に伝わる畏怖レポートの伝説である。

畏怖レポート（後書き）

怖くないと言っか、悪ふざけの話でした…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4803x/>

心霊につき

2011年10月28日13時24分発行